

日本の国会議員によるハダ氏の 2025 年ノーベル平和賞推薦

南モンゴル人権情報センター
2025 年 1 月 27 日
ニューヨーク

プレスリリース

長年の政治犯であり南モンゴル民主同盟（Southern Mongolian Democratic Alliance）会長を務めるハダ氏が、2025 年ノーベル平和賞に正式に推薦されました。この推薦は、日本の与野党を代表する 4 人の国会議員によって行われました。

ハダ氏は不屈の人権活動家であり、南モンゴル（中国では内モンゴルと呼ばれる）に住むモンゴル人の権利を守るために生涯を捧げてきました。過去 30 年間、1995 年の不当逮捕、15 年の服役、さらに 4 年間の拘束、そして 11 年間の軟禁生活を含む厳しい迫害に耐えながらも、彼は平和的な方法で人々の権利を訴え続けています。

1 月 26 日、インド太平洋人権情報センターの会長であり、ハダ氏のノーベル平和賞推薦事務局を務める石井英俊氏が、ノルウェー・ノーベル委員会から推薦を受領した旨のメールを確認したことを発表しました。

この推薦は、日本の国会議員 4 人によって行われ、その中には南モンゴル議員連盟の事務局長で参議院議員の山田宏氏、および日本保守党の衆議院議員である島田洋一氏が含まれています。その他の 2 人の国会議員も推薦を支持しましたが、匿名を希望しています。

「この動きを歓迎するとともに、南モンゴルに住む 600 万人の人々の権利のために生涯を捧げてきたハダ氏を評価してくださった山田宏氏や島田洋一氏をはじめとする日本の 4 人の国会議員に心から感謝申し上げます」と、米国に拠点を置く南モンゴル人権情報センターのエンゲバト・トゴチョグ所長は述べています。「また、南モンゴルの人権と自由の熱心な支持者である石井英俊氏と石井陽子氏にも特別な感謝を申し上げます。彼らの絶え間ない支援と日本の国会との粘り強い協力が、この推薦を実現させました。」

ハダ氏は、南モンゴルの人権と自決権のために長年尽力してきたことから、「南モンゴルのネルソン・マンデラ」として広く認識されています。彼は平和的な方法で、中国人民共和国憲法で保証されている南モンゴル人民の権利を訴え続けてきましたが、これらの権利はいまだ実現されていません。何十年にもわたる不当な投獄と中国当局による秘密施設での軟禁生活にもかかわらず、ハダ氏は自由と人権のために戦う不屈の象徴として存在し続けています。

今回の推薦は、彼の非凡な勇気と忍耐を称えるものであり、ノーベル平和賞にふさわしい候補者であることを強調しています。また、彼が代表する数百万のモンゴル人にとっての希望の象徴でもあります。